

2023年度一般財団法人兵庫勤労福祉センター勤労者意識調査

副業・兼業に関するアンケート 調査結果報告

一般財団法人兵庫勤労福祉センター

(調査実施：特定非営利活動法人ワーク・ライフ・コンサルタント)

調査目的

- 副業・兼業（以下「副業等」）の実施状況と、それを行っている労働者の目的意識や課題、労働者全体の副業等への意向などを把握する。
- これからの労働者の新しいキャリアのかたちとなり得るのか、その課題や可能性を探る。

参考) 2018年 厚生労働省「副業・兼業の促進に関するガイドライン」

労働者側メリット

- ① 離職せずとも別の仕事に就くことが可能となり、**スキルや経験を得る**ことで、労働者が**主体的にキャリアを形成**することができる。
- ② 本業の所得を活かして、自分がやりたいことに挑戦でき、**自己実現を追求**することができる。
- ③ **所得が増加**する。
- ④ 本業を続けつつ、よりリスクの小さい形で将来の**起業・転職に向けた準備・試行**ができる。

調査概要

1. 調査期間 2023年9月～10月
2. 調査対象 県内労働組合に加入する労働者
3. 調査方法 WEBによるアンケート調査（構成組織、地協を通してアンケートURL、QRコードを配布しWEBでの回答）
4. 回収数 1,634件（うち有効回答数 1,586件）

性別	回答数	構成比
男性	1,297	81.8%
女性	281	17.7%
その他	8	0.5%
計	1,586	100.0%

年齢	回答数	構成比
29歳以下	221	13.9%
30～34歳	228	14.4%
35～39歳	262	16.5%
40～44歳	226	14.2%
45～49歳	300	18.9%
50～54歳	194	12.2%
55～59歳	124	7.8%
60～65歳	31	2.0%
計	1,586	100.0%

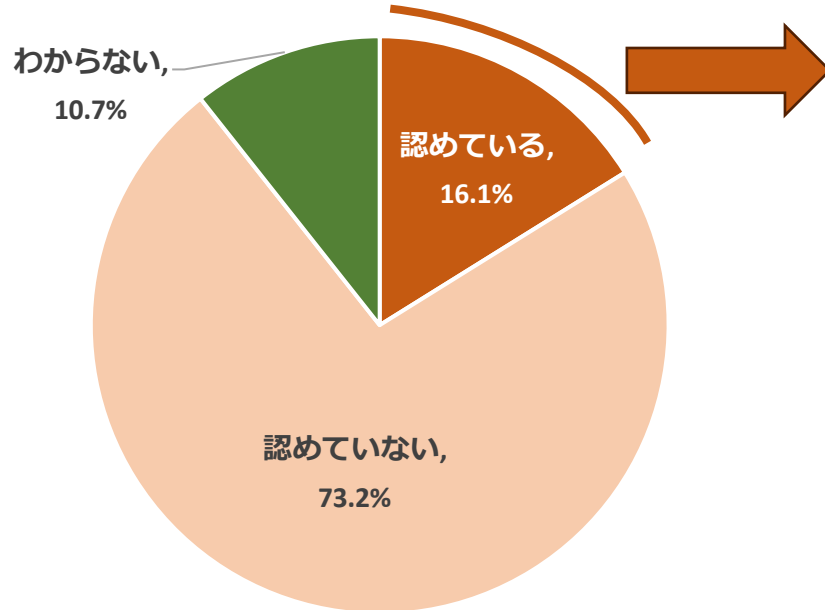
企業規模	回答数	構成比
50人以下	284	17.9%
51～100人以下	112	7.1%
101～300人以下	204	12.9%
301～1,000人以下	299	18.9%
1,001人以上	687	43.3%
計	1586	100.0%

年収	回答数	構成比
400万円未満	305	19.2%
400～500万円未満	338	21.3%
500～600万円未満	346	21.8%
600～700万円未満	260	16.4%
700万円以上	313	19.7%
無回答	24	1.5%
計	1,586	100.0%

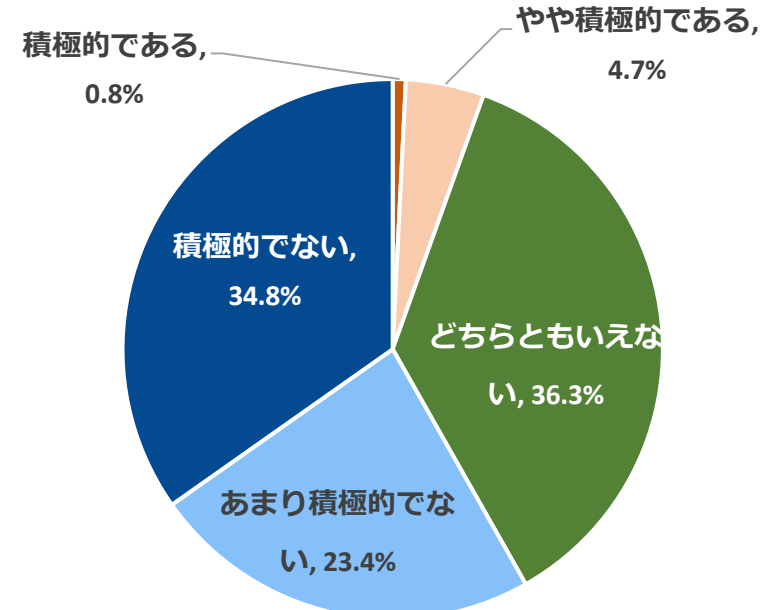
副業等の容認企業は少なく、容認しても積極的には勧めていない

- 副業等が認められていると回答した人は16%。認めていると回答した人のうち、企業は積極的に進めているとした人は5%、積極的でないと回答した人は58%。

あなたのお勤め先では副業・兼業を認めていますか



あなたのお勤め先では副業・兼業を積極的に勧めていますか

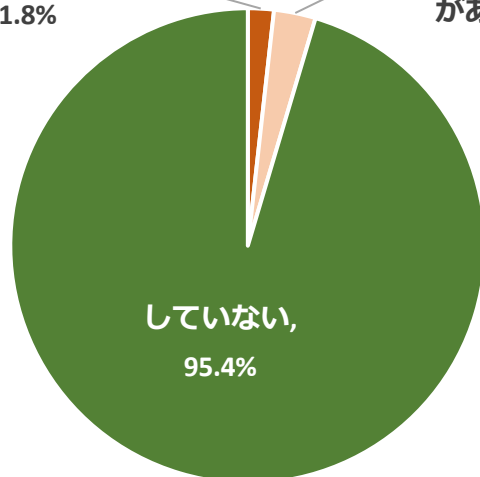


副業等を行っている人はごく少数

- 副業等を行っている人・行ったことがある人は約5%。なお、回答者の勤務先で副業等を行っている方がいると回答した人は16%。

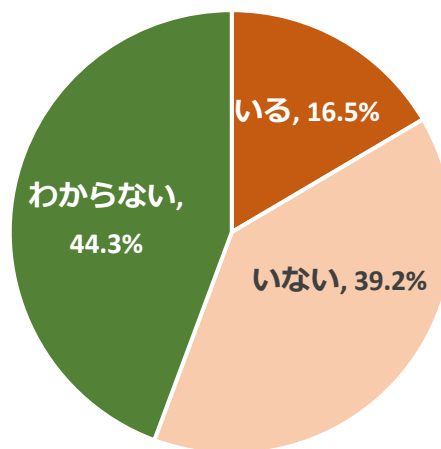
あなたは副業・兼業を実際に行っていますか

現在している, 1.8%
過去にしたことがある, 2.8%



あなたのお勤め先で副業・兼業を行っている方はいますか

(あなた以外)

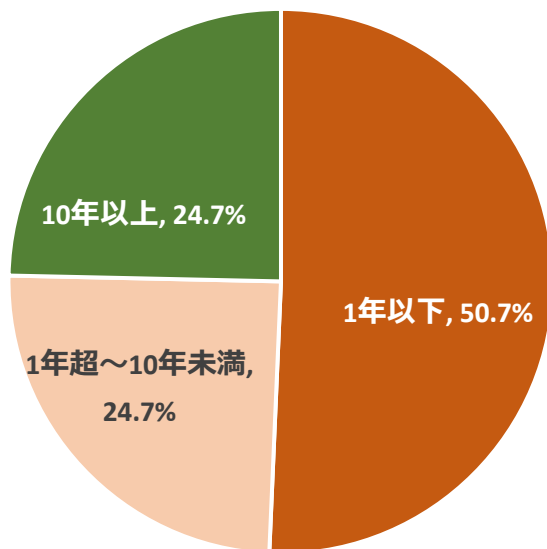


副業等を行っている労働者の状況

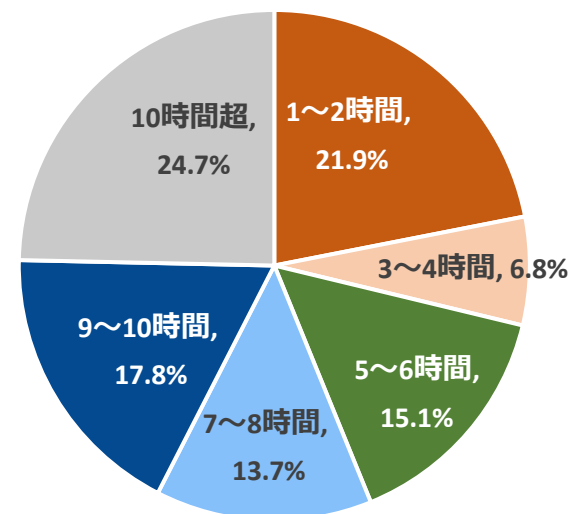
副業等の実施者の多くは経験年数が浅く、週当たり8時間以内で働く

- 副業等のトータル経験年数は約半数が1年以下であり、同じく約半数が1週間に8時間以内で働いている。

副業・兼業のトータルでの経験年数を教えてください

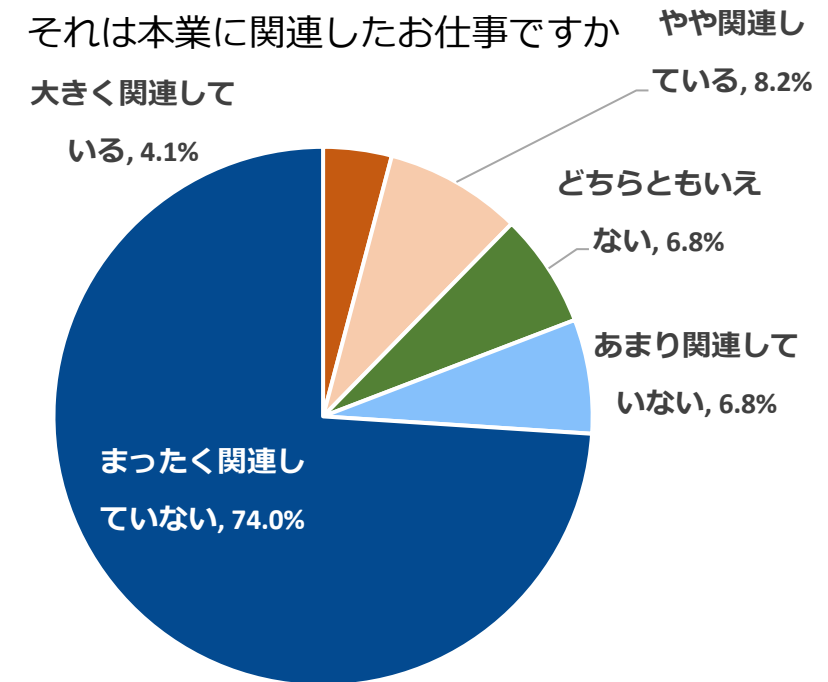
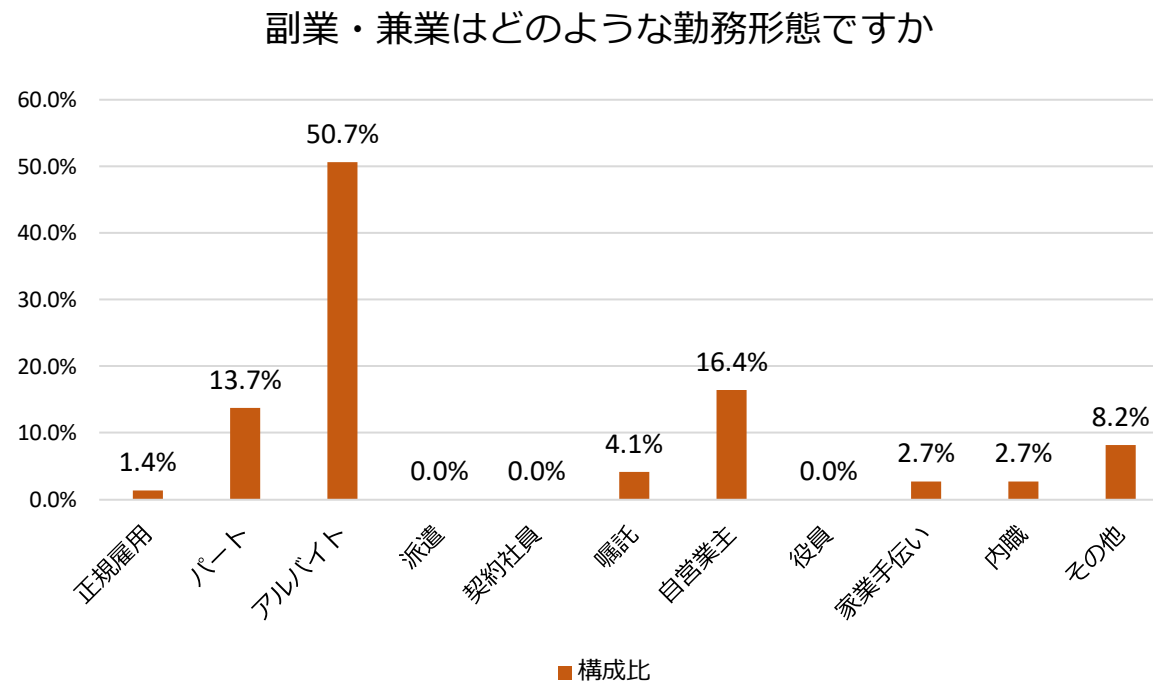


副業・兼業は週当たりどのぐらいの時間費やしてますか



副業等の実施者の多くはアルバイト勤務で働き、本業とはまったく関連がない

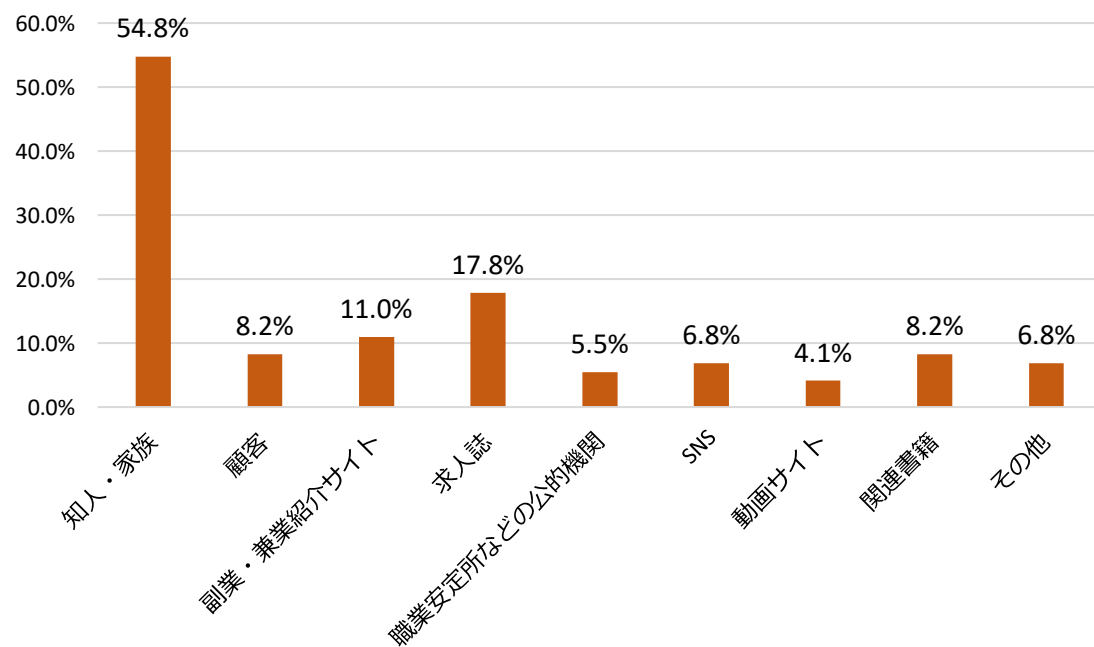
- 副業等は約半数がアルバイト勤務であり、74%の人は本業とまったく関連しない仕事についている。



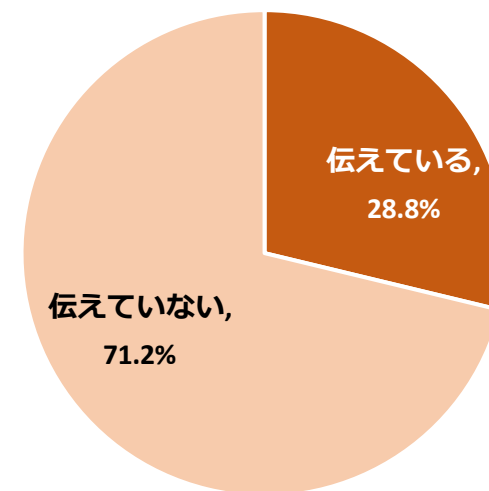
副業等を選ぶ際、多くは知人・家族を通じて情報を得ている

- 副業等を選ぶ際、約半数は知人・家族を通じて情報を得ている。また、勤務先に伝えていない人は71%。

副業・兼業を選ぶ際に、どのようなところから情報などを得ましたか（複数回答可）



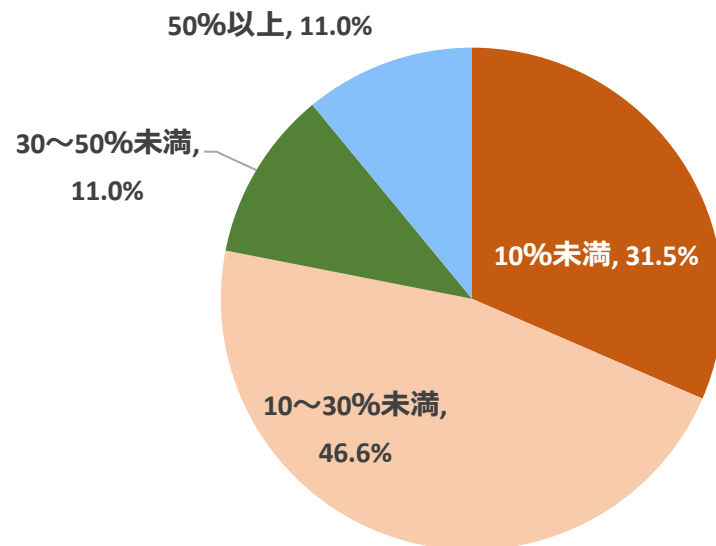
副業・兼業を行っていることを勤務先には伝えてはいますか。



副業等の収入割合は、本業含めた全体収入のうち3割未満の回答が多い

- 本業と副業等を合わせた全体収入のうち、副業等の収入割合は10～30%未満と回答した人が46%と最も多く、次いで10%未満が31%と、大半の人が約3割未満の回答となった。

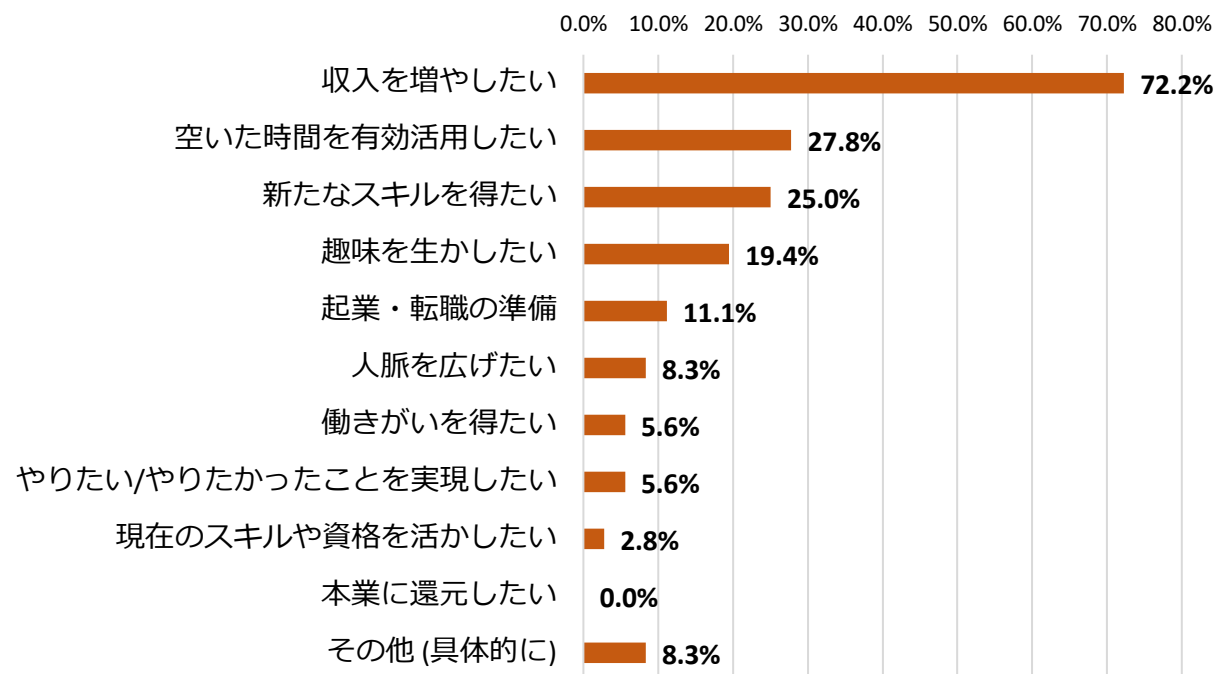
「本業」と「副業・兼業」の収入を合わせて100とした場合、「副業・兼業」の収入割合を教えてください。



副業等を行った理由は、大半が収入を増やすため

- 副業等を行った理由では、「収入を増やしたい」との回答が72%と最も多い。次いで、やや回答者の割合は少なくなるが「空いた時間を有効活用したい」「新たなスキルを得たい」の理由が挙げられている。

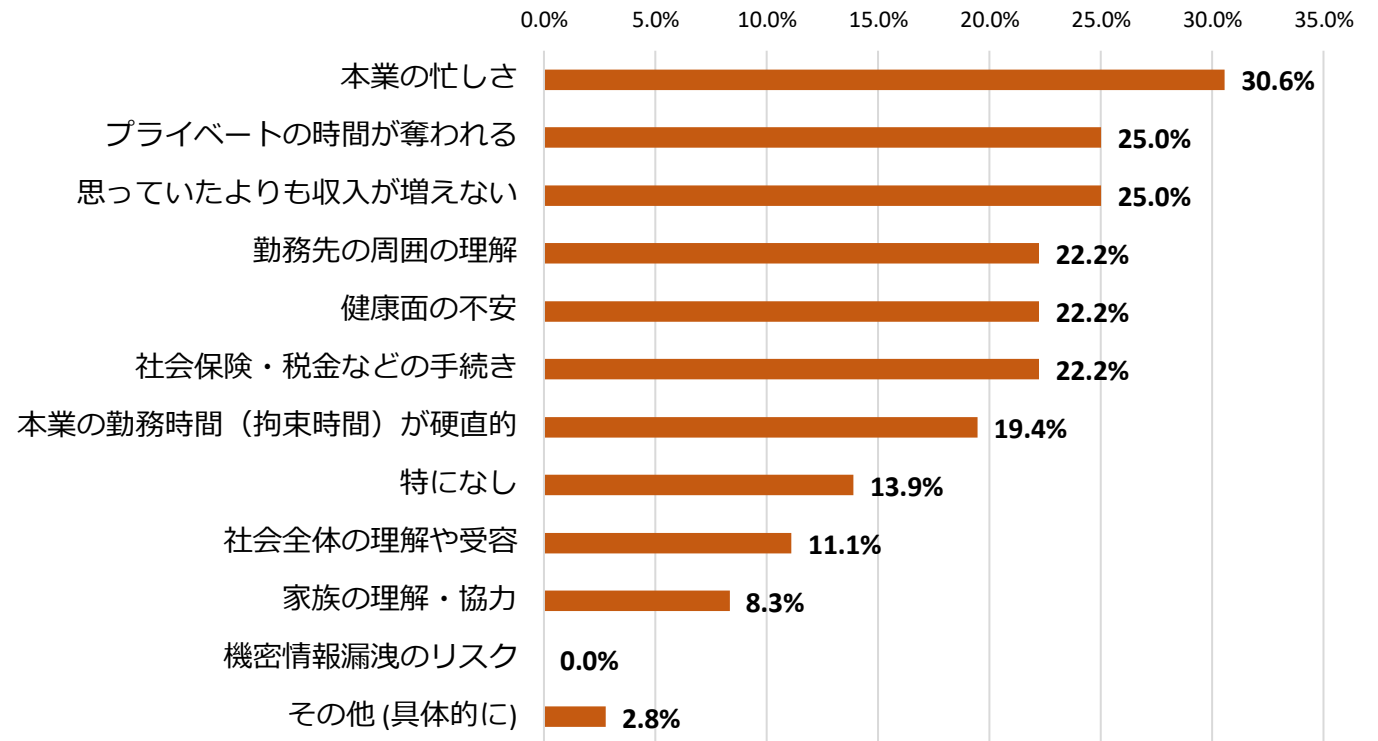
副業・兼業を行った理由は何ですか（最大3つまで）



副業等を行う人は本業が忙しく、プライベートの時間が奪われることが問題

- 副業等を行う中で、約3割前後の人は「本業の忙しさ」や「プライベートの時間が奪われる」といったワーク・ライフ・バランスに問題を抱えている。また、「思っていたよりも収入が増えない」といった悩みを25%の人が抱えている。

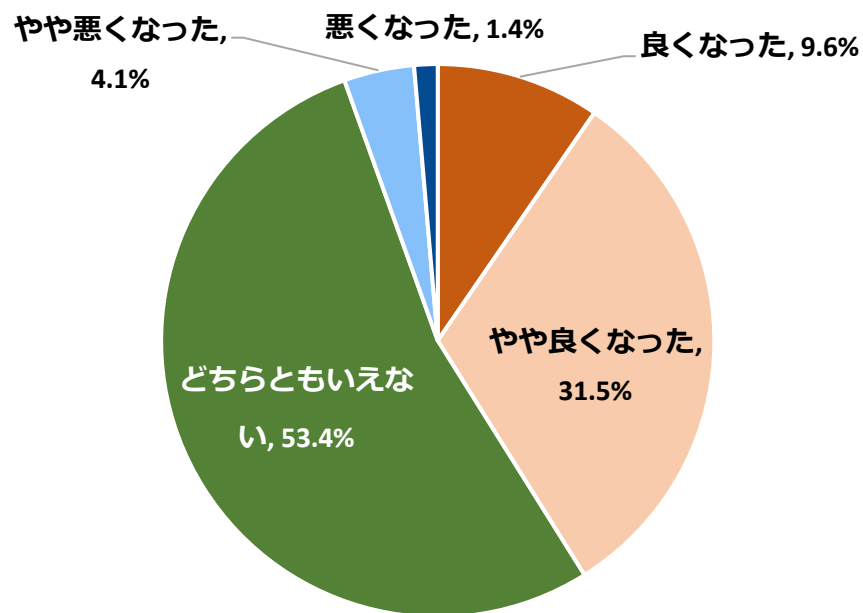
副業・兼業を行う中で、問題に感じていることはありますか（最大3つまで）



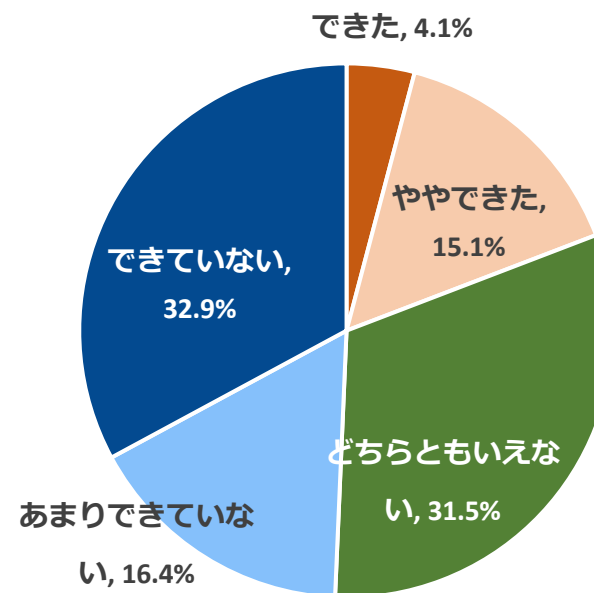
副業等を行って暮らしが良くなった人は約4割

- 副業等によって暮らしが良くなった人は41%。しかし「どちらともいえない」人も53%いる。また、副業等を本業でも活かしている人は19%であるが、活かせていない人は49%いる。

副業・兼業によってあなたの暮らしはどう変わりましたか



副業・兼業の仕事は本業での仕事にも生かすことができましたか

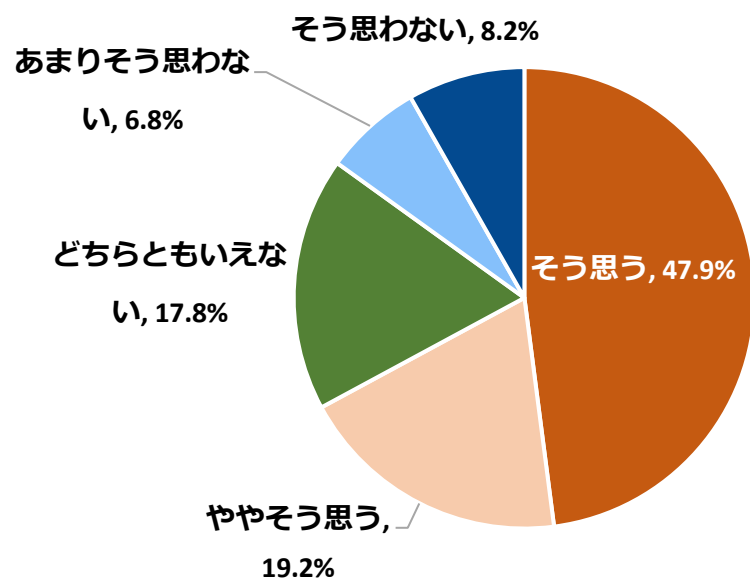


副業等を継続したい意向の人は多いが、満足している人は約3割

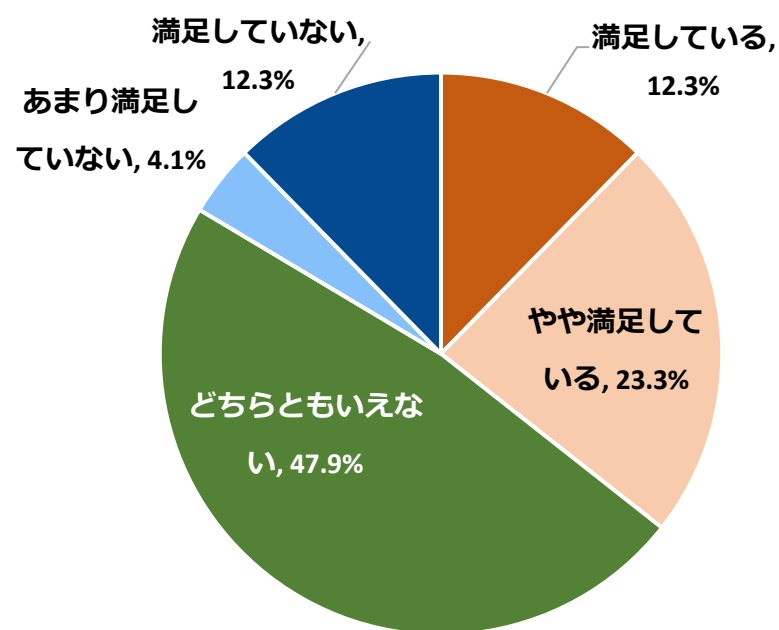
- 副業等を継続したい意向の人は67%いる。しかし、副業等への満足度では満足している人は35%で、「どちらともいえない」人が47%と最も多い。

副業・兼業しながらも本業でも働き続けていきたいと思っ

ますか



総合的に見てあなたの副業・兼業について満足していますか

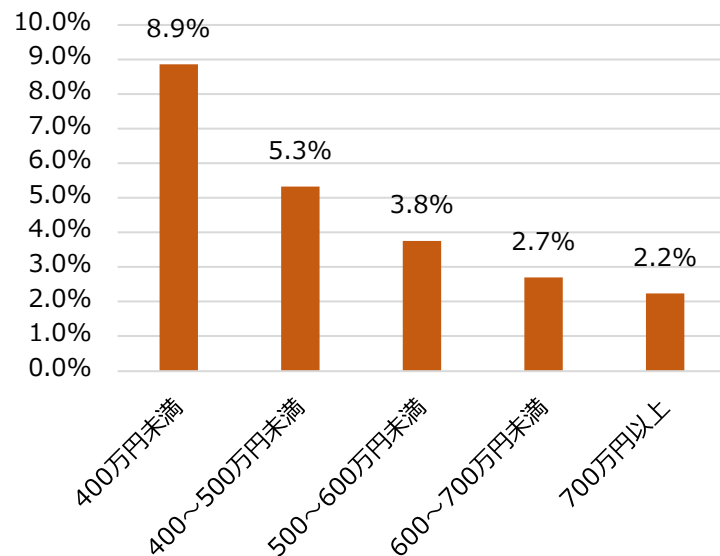


副業等実施・経験者は年齢層が高く、年収400万円未満が多い

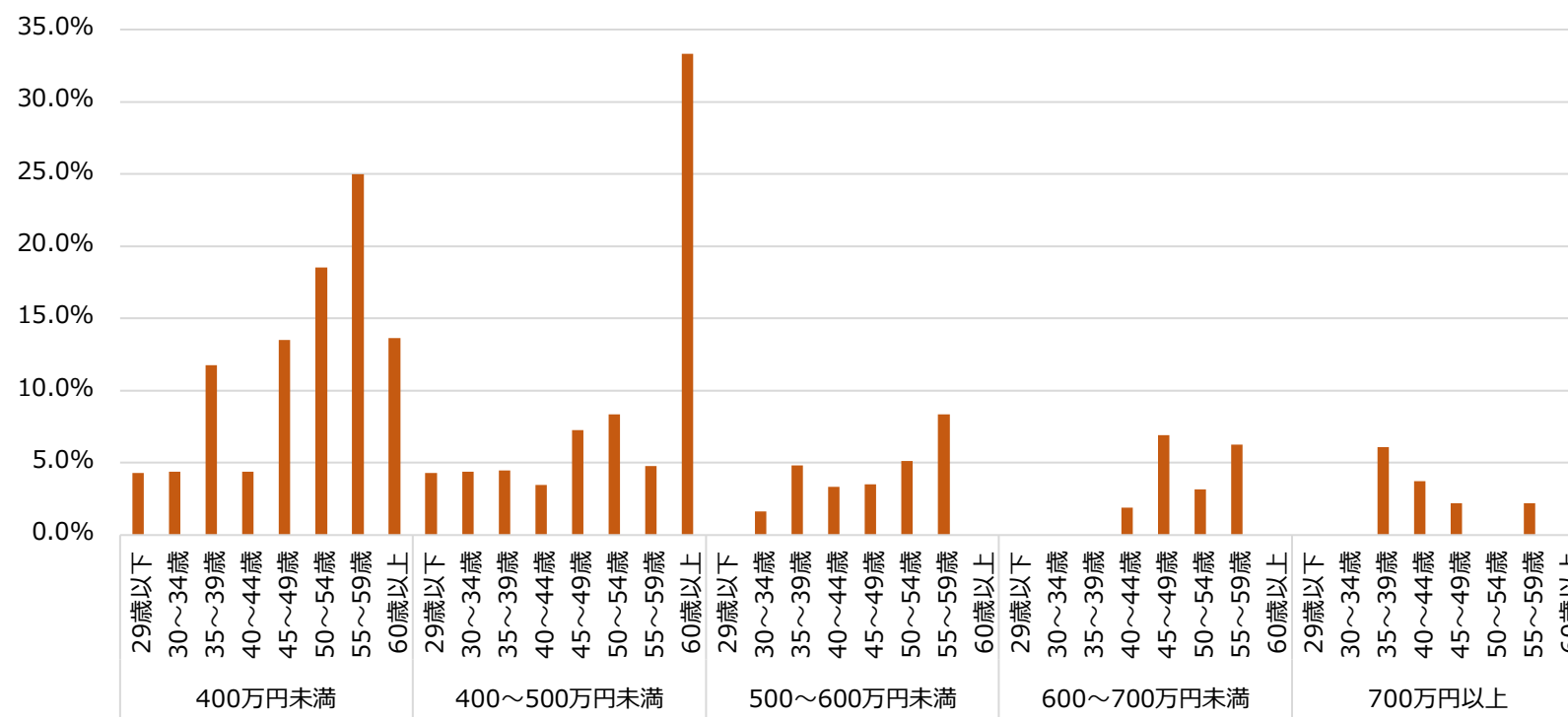
- 副業等を現在実施もしくは経験した人では、年収区分では400万円未満が多く、年齢層が高くなるほど実施もしくは経験者が多くなる。

副業等を実施・経験している人～

年収別の構成比



副業等を実施・経験している人～年収年齢別の構成比



副業等の目的を自己実現としている人は、その満足度が高い

- 副業等の目的を自己実現を図るための仕事と捉えている人はそうでない人に比べて、副業等に満足を感じている。

		総合的に見てあなたの副業・兼業について満足していますか。					合計
		満足していない	あまり満足していない	どちらともいえない	やや満足している	満足している	
自己実現を図るための仕事	当てはまらない	6 22.2%	2 7.4%	14 51.9%	2 7.4%	3 11.1%	27 100.0%
	あまり当てはまらない	1 7.7%	0 0.0%	7 53.8%	3 23.1%	2 15.4%	13 100.0%
	どちらともいえない	1 6.3%	0 0.0%	10 62.5%	5 31.3%	0 0.0%	16 100.0%
	やや当てはまる	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	5 62.5%	0 0.0%	8 100.0%
	当てはまる	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	2 22.2%	4 44.4%	9 100.0%
合計	9 12.3%	3 4.1%	35 47.9%	17 23.3%	9 12.3%	73 100.0%	

		総合的に見てあなたの副業・兼業について満足していますか。					合計
		満足していない	あまり満足していない	どちらともいえない	やや満足している	満足している	
生活費を稼ぐための仕事	当てはまらない	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%	1 20.0%	1 20.0%	5 100.0%
	あまり当てはまらない	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%
	どちらともいえない	0 0.0%	0 0.0%	5 62.5%	2 25.0%	1 12.5%	8 100.0%
	やや当てはまる	1 12.5%	1 12.5%	3 37.5%	2 25.0%	1 12.5%	8 100.0%
	当てはまる	7 14.3%	2 4.1%	23 46.9%	12 24.5%	5 10.2%	49 100.0%
合計	8 11.1%	3 4.2%	35 48.6%	17 23.6%	9 12.5%	72 100.0%	

小括 副業等を行っている労働者の実態

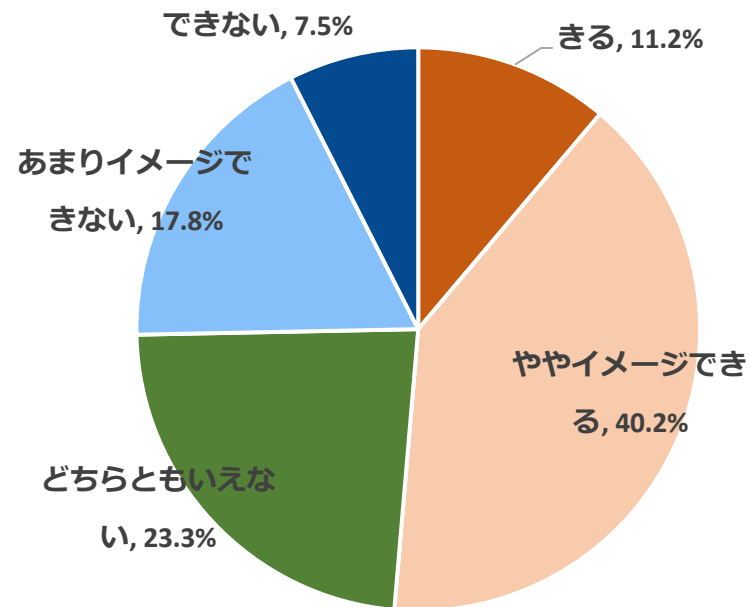
- 副業等を行っている・経験した人（以下「副業等の実施・経験者」）はごくわずかであり、大半は1週間8時間以内でアルバイト勤務。本業に関連していない仕事についている。
- 年収が低く年齢層が高いほど副業等の実施・経験者が多い。
- 多くは収入を増やす目的で副業等を行っているが「思っていたより収入が増えない」といった人も25%おり、副業等により暮らしが良くなったかどうかについての回答では「どちらともいえない」と回答した人は約5割となっている。
- 副業等を自己実現を図るための仕事と捉えている人たちは、副業等への満足度が高い。

副業等を希望する労働者

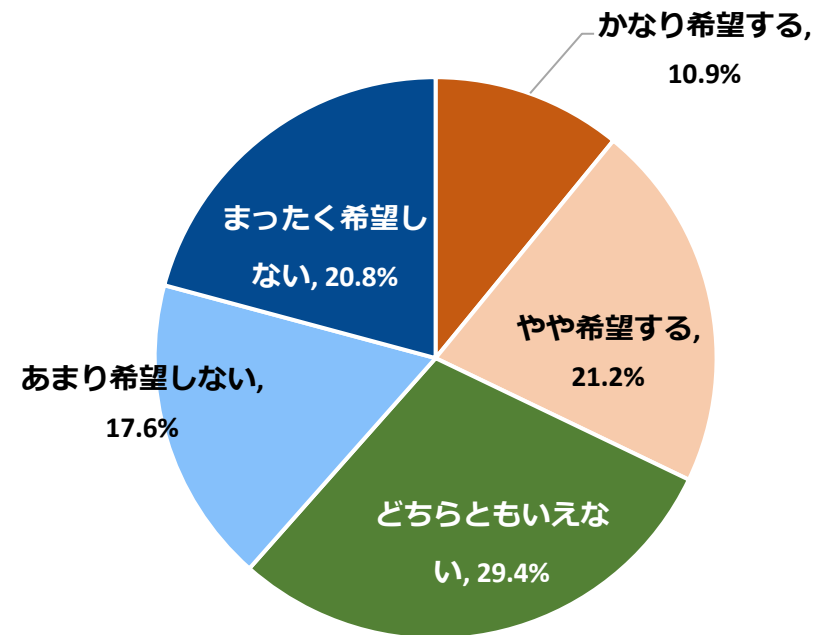
副業等を希望する人は約3割

- 副業等をどのようなものか具体的にイメージできる人は51%。
- 副業等を希望する人は31%、希望しない人は38%。

副業・兼業とはどのようなものかを具体的にイメージできますか



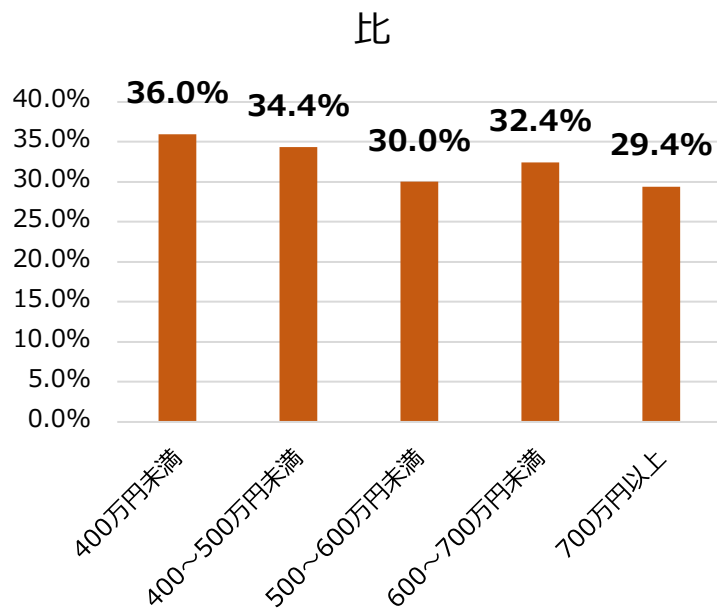
副業・兼業を希望していますか



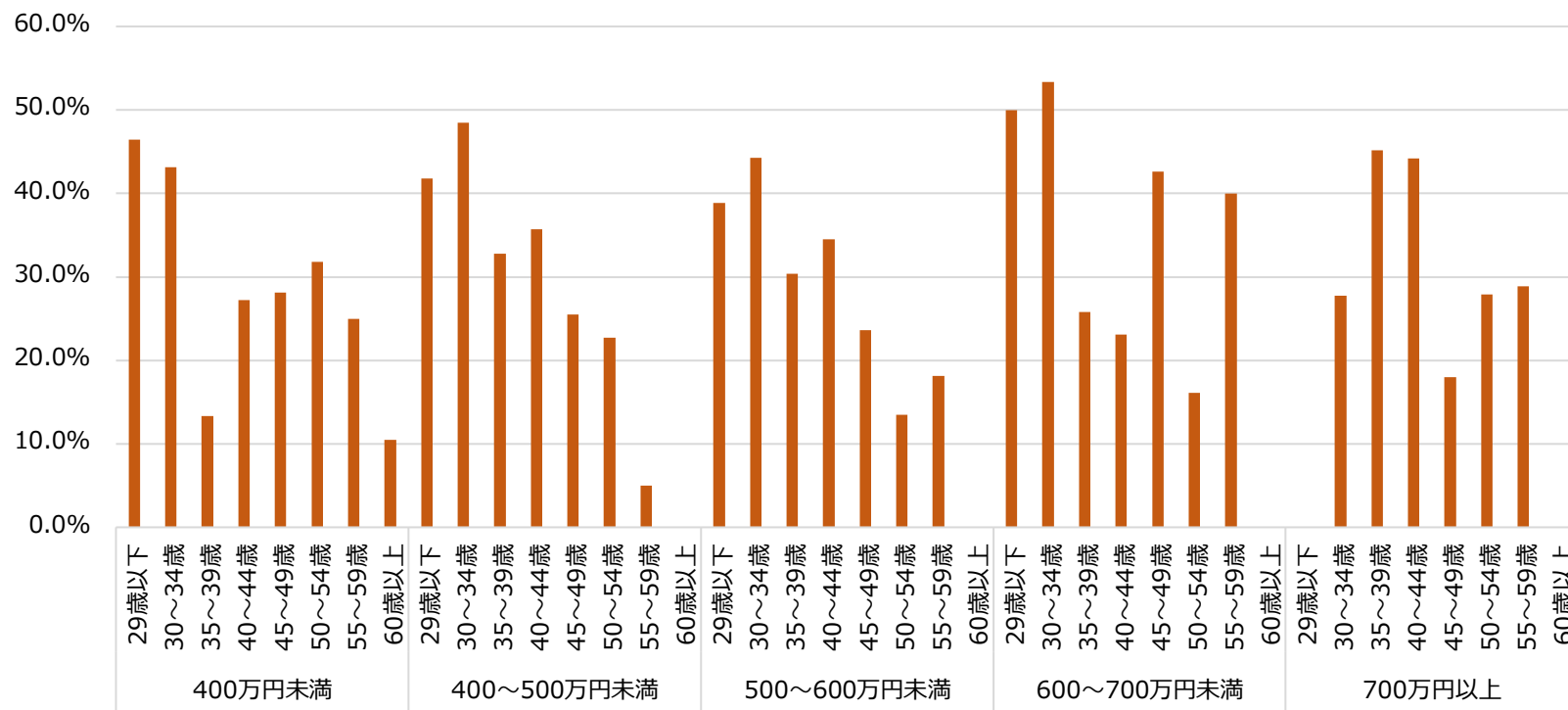
副業等を希望する人は年齢層が低いほど多い

- 副業等を希望する人は年収別では大きな差がなく、年収年齢別で見た場合、比較的年齢層の低い人ほど希望する人は多い。

副業等を希望する人～年収別構成



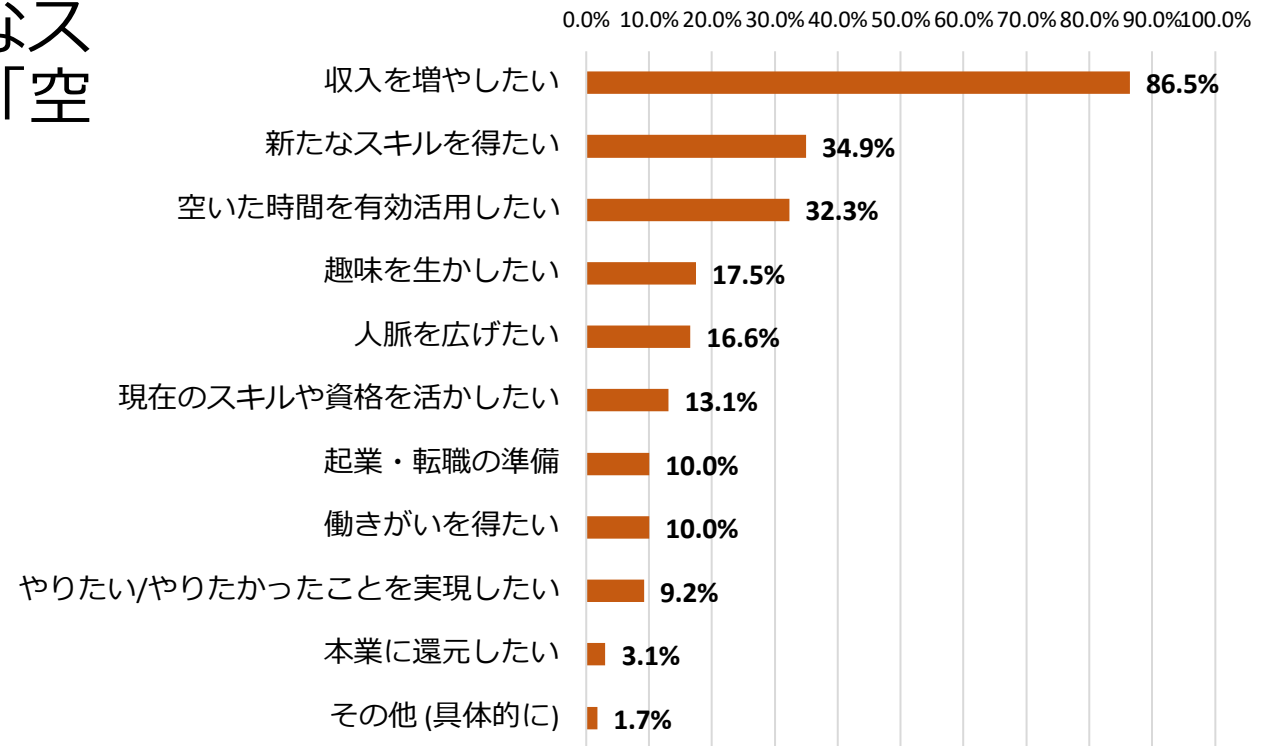
副業等を希望する人～年収年齢別の構成比



副業等を希望する理由は、大半が「収入を増やしたい」

- 副業等を希望する理由として、最も多かったのが「収入を増やしたい」（86%）であり、回答割合が大きく減って「新たなスキルを得たい」（34%）、「空いた時間を有効活用したい」（32%）が続いている。

副業・兼業を希望する理由は何ですか（最大3つまで）



副業等希望者の多くの方は生活費を稼ぐための仕事として捉えている

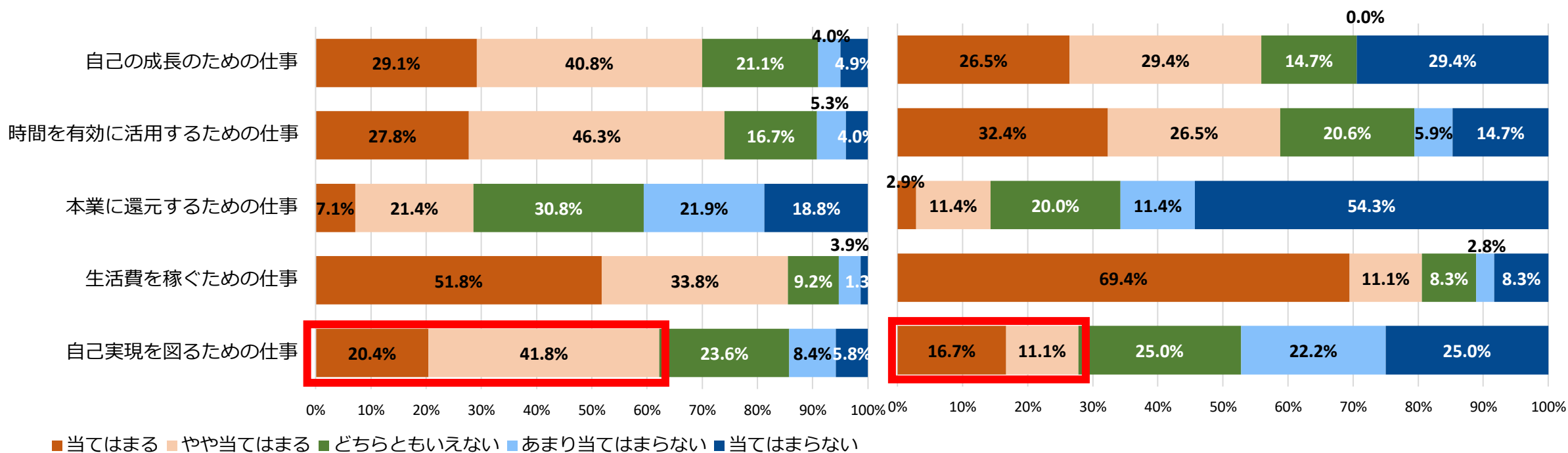
- 副業等希望者の85%は生活費を稼ぐための仕事と捉えている。なお、副業等実施者に比べて、自己実現を図るための仕事と捉えている人が多くいる。

(副業希望者) 副業・兼業がもしも実現した場合、あなたにとって

どのようなものになりそうですか

(副業実施者) 副業・兼業はあなたにとってどの

ようなものですか

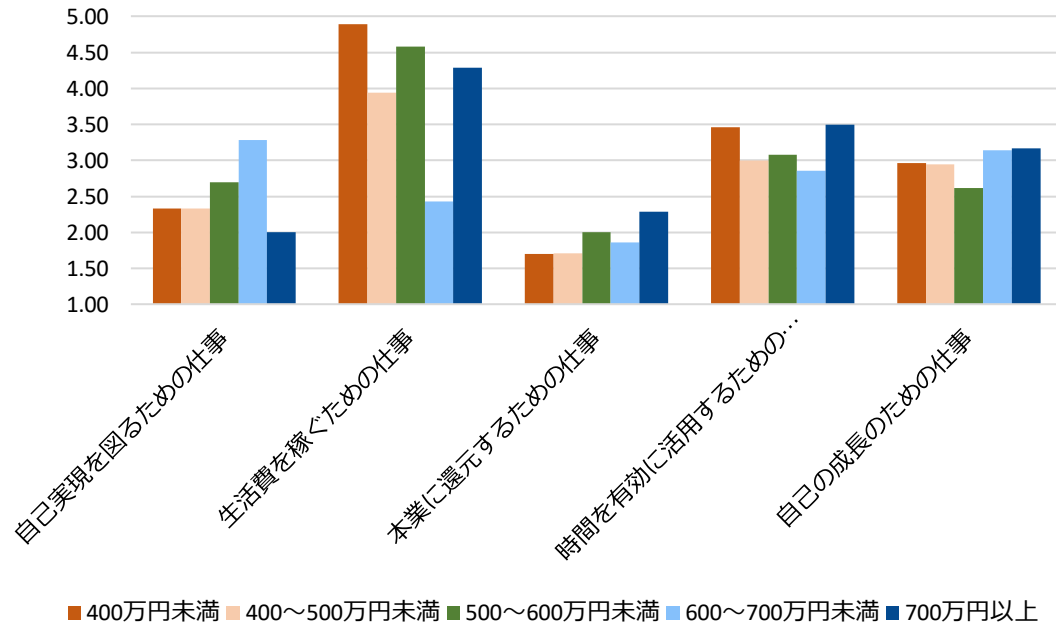


副業等を希望する人は副業実施者に比べ自己実現や自己成長を目的としている

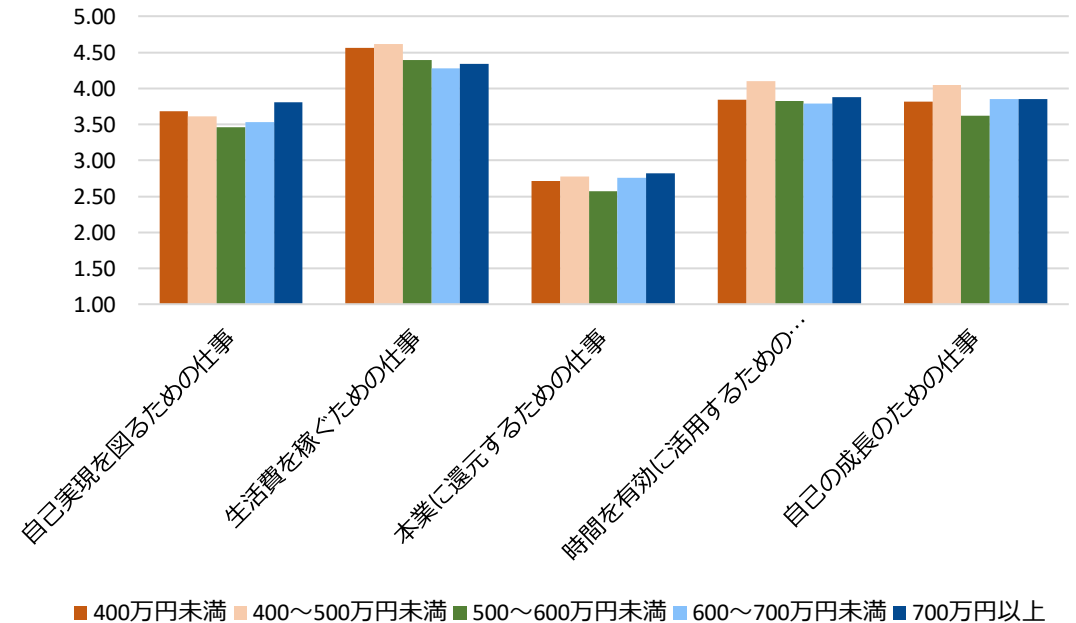
- 年収区分別で見た場合、副業等を実施・経験している人は主に生活費を稼ぐことを目的としている人が多い。それに比べて、副業等を希望する人は年収に関わらず自己実現や自己成長を目的としている人が多い。

※平均値：各目的に対し「そう思う」=5点～「そう思わない」=1点で算出

副業等実施・経験者～目的別×年収別



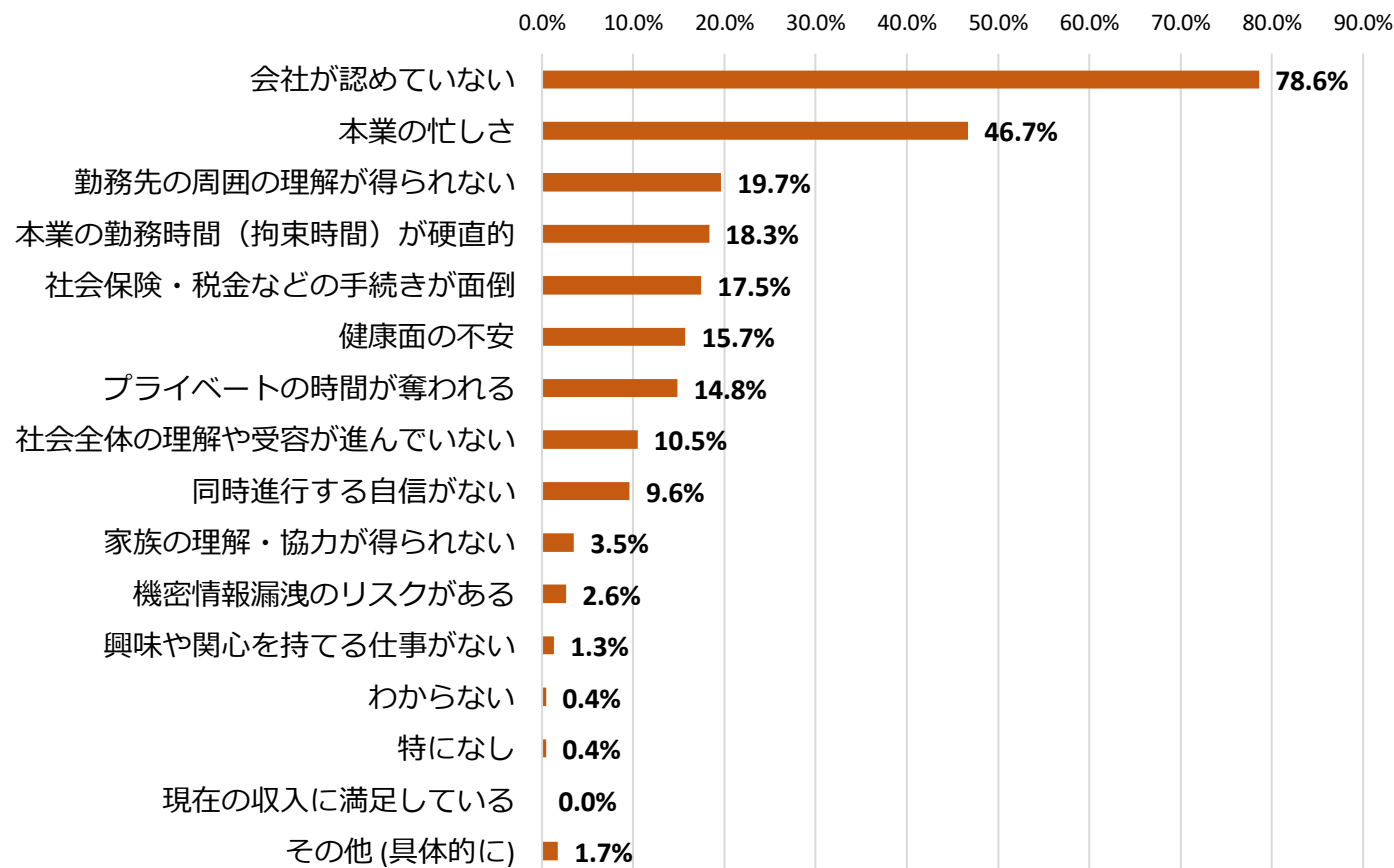
副業等を希望する人～目的別×年収別



副業等を行う場合、勤め先の容認や本業の忙しさが大きな問題

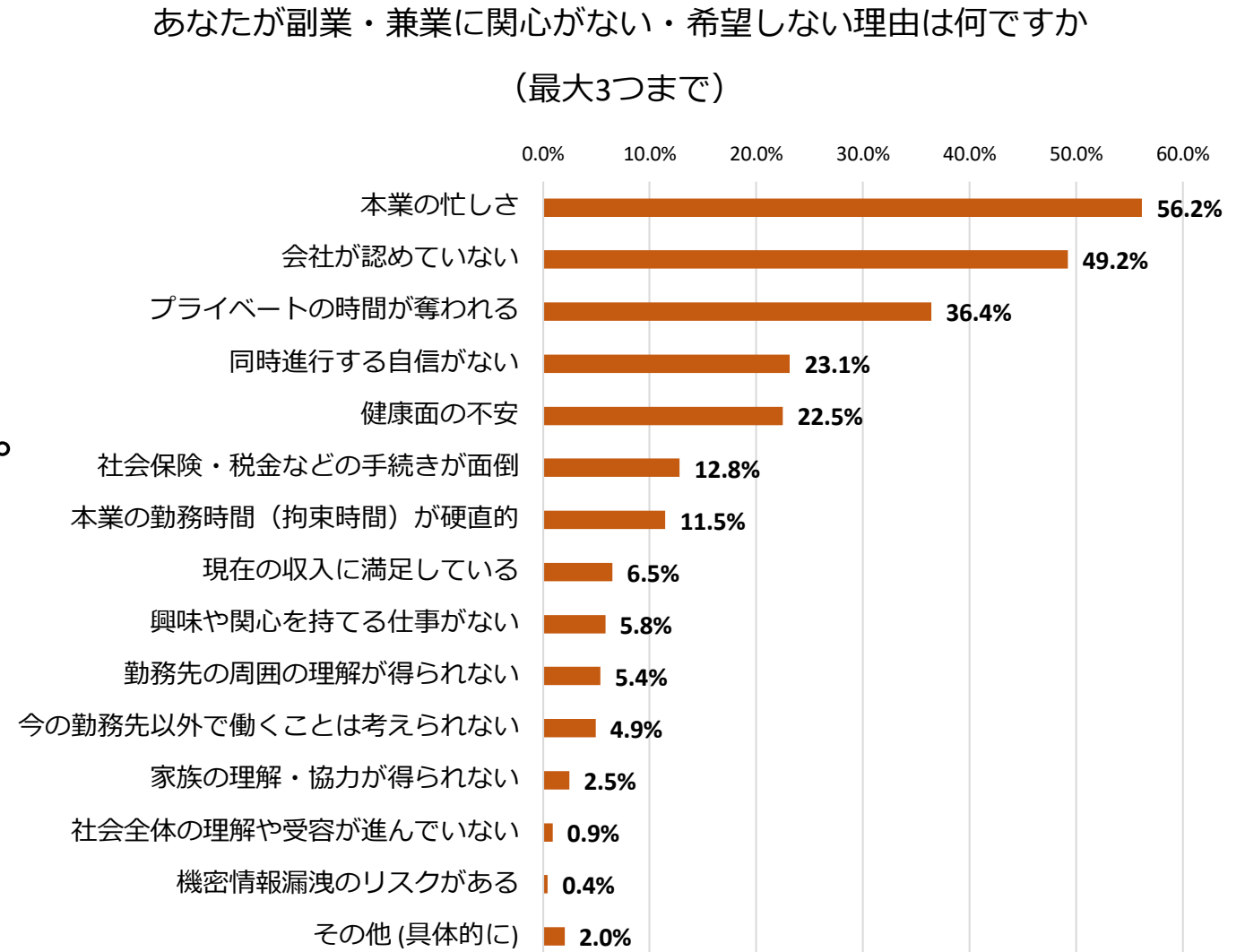
- 副業等希望者がそれを行う場合の想定される阻害要因では、「会社が認めていない」(78%)が最も多く、次いで「本業の忙しさ」(46%)となっている。

あなたが副業・兼業をする上で阻害する要因となりそうなものは何ですか(最大3つまで)



【副業等を希望しない労働者】 副業等を希望しない理由は本業の忙しさや会社が容認していないため

- 副業等を希望しない人は「本業の忙しさ」(56%)を理由に挙げる人が最も多く、次いで「会社が認めていない」(49%)、「プライベートの時間が奪われる」(36%)となっている。



小括 副業等を希望する労働者の実態

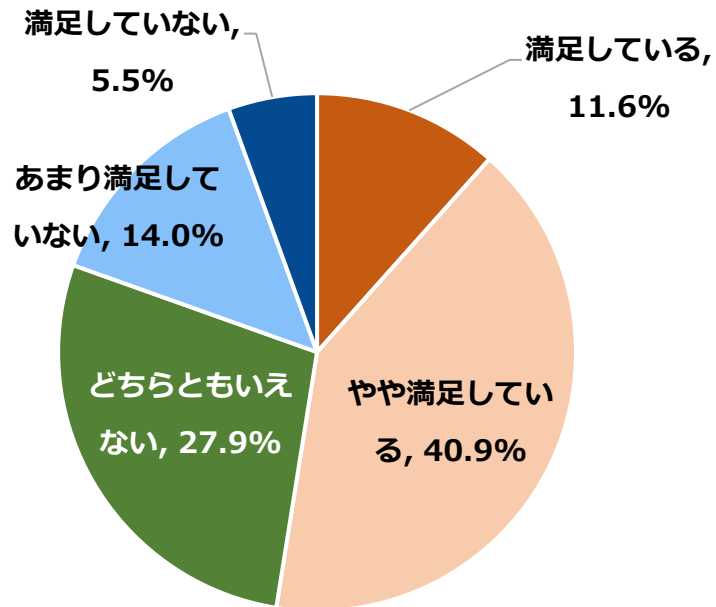
- 副業等を希望する人は31%、希望しない人は38%と同程度となった。希望する人は年収に関わらず、相対的に若い世代に希望する人が多くいる。
- 副業等を希望する人の大半が収入増を理由に挙げている。しかし、潜在的な欲求として希望者の約6割は、副業等を自己実現を図る目的としても捉えている。
- 副業等を希望する人、希望しない人ともに、それを行う際の阻害要因や行わない理由として約5割の人が「本業の忙しさ」を挙げている。

副業等と仕事と生活の満足度等との 関係

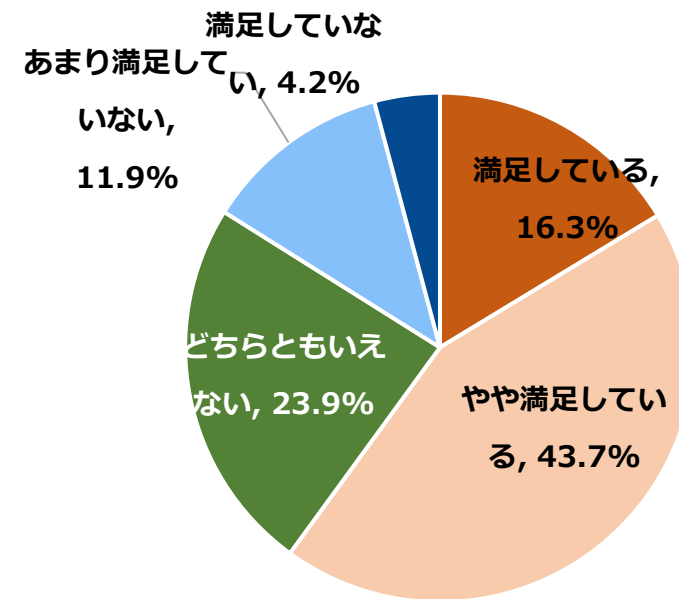
職業生活、私生活ともに満足している人は過半数

- 総合的に見て職業生活に満足している人は52%、私生活に満足している人は60%。

総合的に見てあなたの職業生活に満足していますか。



総合的に見てあなたの私生活に満足していますか。

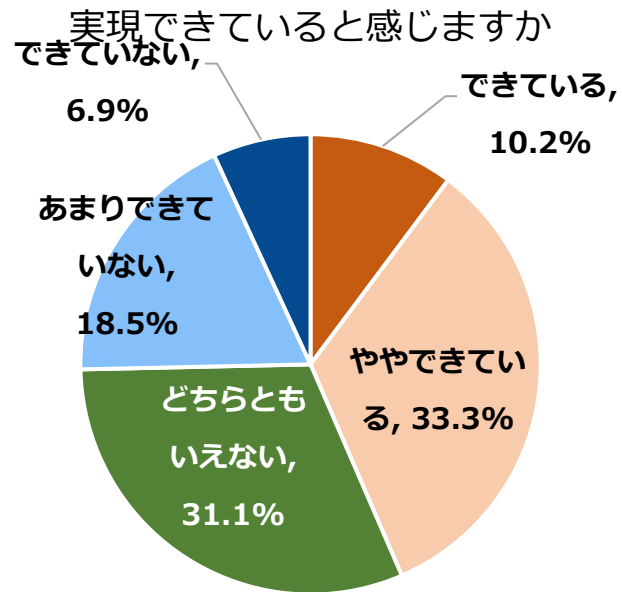


WLBが実現できていると感じている人は約4割

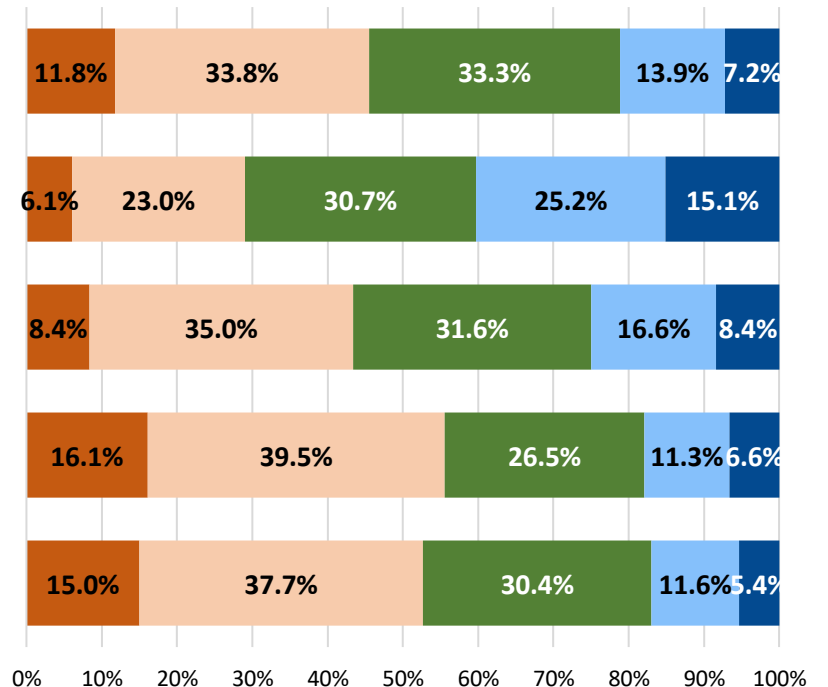
- WLBが実現できていると感じている人は43%。組織コミットメントではおおむね約5割前後が組織への帰属意識を持つ。

あなたの職場に対する意識について（副業・兼業をされている方は「本業」について）

総合的に見てあなたはワーク・ライフ・バランスが



この会社の一員であることを誇りに思っている
私は、この職場という「家族」の一員になっているように思う
私は、この職場に一体感を感じている
私は、この職場に愛着を感じている
私は、職場の問題を、まるで自分自身の問題であるかのように感じている

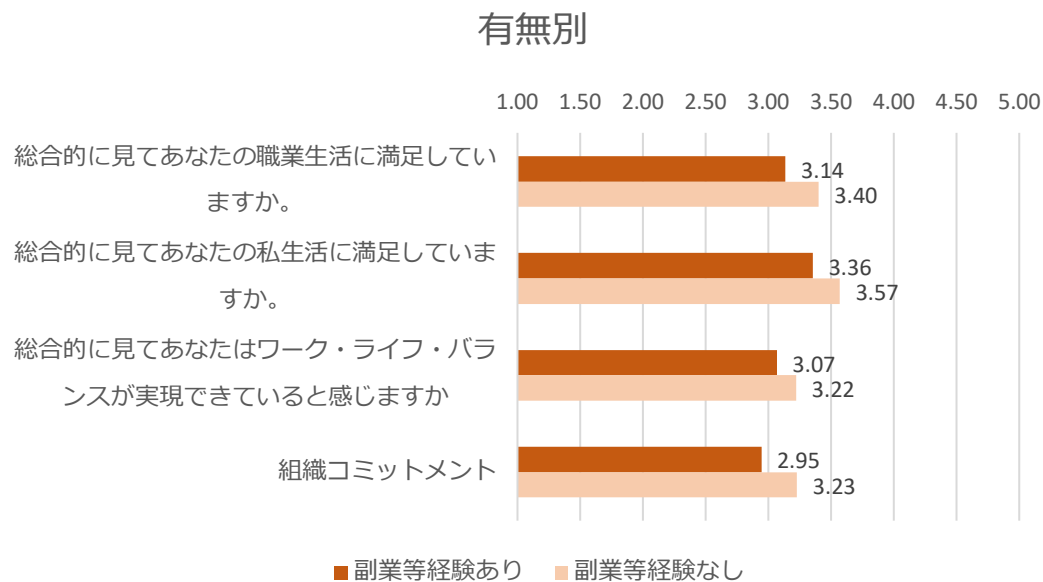


■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

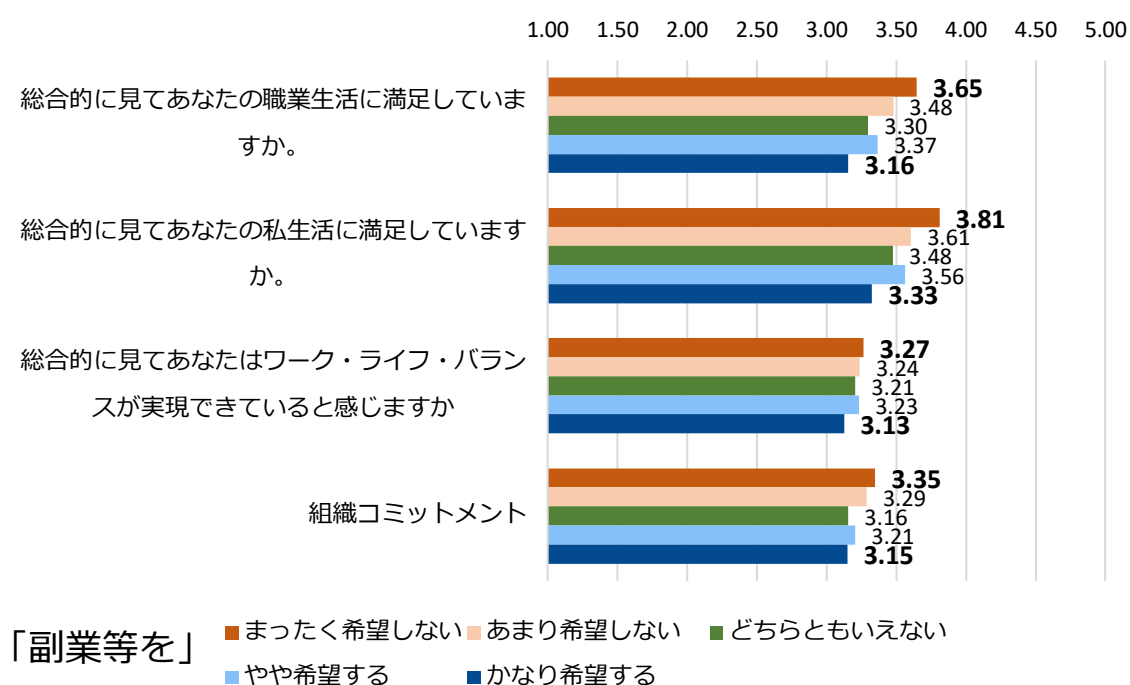
副業等の実施・経験者や希望者はそうでない人よりやや仕事や生活の満足度が低い

- 副業等の実施・経験した人はそうでない人に比べて、仕事や生活の満足度がやや低い。副業等の希望意向が高い人ほど、仕事と生活の満足度が低くなる。 ※平均値：各目的に対し「そう思う」=5点～「そう思わない」=1点で算出

仕事・職場・生活への意識～副業等の実施・経験



仕事・職場・生活への意識～副業等の希望有無別



まとめ

現状では、副業等は収入を増やすことが大きな目的であり、自己実現や自己成長といったキャリア形成を主たる目的には捉えられていない。

今後、情報技術の進展、人生100年時代のキャリア形成視点で、副業等も視野に入れた取り組みは進むかもしれないが、足元の経済基盤、生活基盤がまずは安定しない限り、労働者の真に主体的なキャリア形成はまだ実現できそうにない。

まとめ

若年世代労働者の副業等へのニーズに、今後企業はどのように応えるべきか。

副業等を行おうとする場合の阻害要因として、「会社が認めていない」と回答した人は約8割と最も多い。企業がこのようなニーズに応じていくには、組織として労働者の声を丁寧に拾いながら副業等をどのように捉えているのかを明確に示す必要性が生じる。

まとめ

副業等を認める場合、副業等を行う人と行わない人との間に生まれる溝の解消をどうすべきか。

副業等を希望する人、しない人ともに「本業の忙しさ」を約5割が挙げていた。働き方改革で労働時間の削減が進みつつあるが、依然として仕事量が変わらず、むしろ増えるなどして自身の仕事を自律的にコントロールできていない。まず組織の中で業務を自身でコントロールできる自律性を高めることや、そのための業務の標準化や平準化といった働き方の見直しをさらに進めていく必要がある。